

参加者の声

道内の高校生



道外の生徒と関わることはほとんどないので、同世代の人と関わることでとてもよかったです。今後仲間と一緒に自分たちが考えている計画をどんどん進めて、社会を変えられるような活動をしたいです。脳内で終わらせるのはもったいないので。

道内の高校生



今回の会議では私自身マイクロアグレッションを気にしながら過ごしました。そのおかげで少しは相手のことや自分の発言を気にかけてながら会話できるようになったと思います。この経験をこれからの普段の生活はもちろん、留学生や外国人との会話でも活かしていきたいです。

道外の高校生



共生は民族や他の人種の人と共存していくことと考えていたが、今回を通してお互いのことを知り、尊敬し合うことが大切だという考えに変化しました。お互いを知るためには、実際にその物や人に触れ、体験することが重要。また、共生は民族などだけでなく、地域の人や企業などさまざまな人と共存していく、配慮していくことでも改めて知りました。

道内の先生



異なる地域に住む生徒同士が真剣かつ楽しんで話し合い、お互いのことを知り良い学びになったこと、特に同じ国民でも知らないことだらけなんだということを生徒が学んだことが一番です。北海道民ということ言えば、間違いなくアイヌの事を知り、真剣に考えることができたので、地元を知る経験ができました。

道外の先生



普段の学校生活では得られないものがあるということを経験として生徒に知ってもらえたこと、自分の成長のために様々な知識や経験が大切だと体感してもらえたことがよかったです。

道外の先生



他校の取り組みを伺い、実際の生徒さんの様子を見て、探究活動に関してもっときちんと計画的に取り組む必要があると感じました。

北海道応援団会議スマイルアンバサダー(道庁任命)「マラマ・ハワイ・北海道」代表
REIKO TOKUSHIGE ROGERS



- **ウアイヌコロ会議DAY1(ウポポイ探究学習プログラム)**
道内外の14の高校から参加した高校生の皆さんとコタンにて、伝統的コタン担当スタッフ、ロックルさんの語りをきいたあと、アイヌ舞踊を鑑賞しました。
- **ウアイヌコロ会議DAY1(自己紹介&交流会)**
高校生の発言、とても興味深かったです。Boys & Girls応援します。オーストラリアから先住民アボリジナルピープル、ウィリーさん、プレストンさんも来道され、伝統芸能を御披露。私も、Day2のパネルディスカッションで話す、ハワイで大切にしている共生社会の基本、Alohaを紹介。私が、長年のハワイ生活で学び、実際体験し、感謝し、結果、身につけてきたアロハスピリッツについて、DAY2で高校生の皆さんと共有できたらと思います。
- **ウアイヌコロ会議DAY2**
興味深いプレゼンが続きました。沢山の対話が育まれたDAY2でした。コミュニケーションは世代や時代を超えて、共生社会において不可欠で大切なアクティビティだと再認識しました。



(お問い合わせ) 公益財団法人アイヌ民族文化財団 民族共生象徴空間運営本部 誘客広報課
メールアドレス: submit@ainu-upopoy.jp



第1回

ウポポイで「共生社会」について考える1日会議

ウアイヌコロ 会議



開催
しました!



「ウアイヌコロ」とはアイヌ語で「尊敬し合う」を意味します。

目的

ウポポイの人々と交流し、これからの時代に必要とされる「共生社会」を実現するために、私たちができること(役割)を考え、全国へ発信しよう!!

開催概要

- 日時** 2025年1月10日(金)～12日(日)
- 内容** 1月10日(金) / ウポポイ探究学習プログラム、11日(土) / ウアイヌコロ会議、1月12日(日) / エクスカーション
- 会場** 1月10日(金)・11日(土) / ウポポイ(民族共生象徴空間)、12日(日) / 北海道ボールパークFビレッジ
- 主催** ウアイヌコロ会議設立・実行委員会(公益財団法人アイヌ民族文化財団、北海道教育庁、公益社団法人北海道観光機構、株式会社日本旅行北海道)
- 後援** 北海道

参加者

高校生78名、引率教員、道内高校教員(引率教員を除く)等20名

「高校生内訳」

- 道内 / 35名**
遺愛女子中学校・高等学校、札幌日本大学中学校・高等学校、北星学園女子中学高等学校、北海道岩見沢東高等学校、北海道登別青嶺高等学校
- 道外 / 43名**
かえつ有明中・高等学校(東京都)、武蔵野高等学校(東京都)、立命館高等学校(京都府)、関西大学高等部(大阪府)、関西大学北陽高等学校(大阪府)、岡山学芸館高等学校(岡山県)、清心女子高等学校(岡山県)、広島翔洋高等学校(広島県)、徳島県立脇町高等学校(徳島県)



事前学習

事後学習

1 STAGE | 探究学習

- STEP 1 事前学習① マイクロアグレッションについて理解
 - ・共生社会を考えよう
 - ・交流するための準備をしよう
- STEP 2 事前学習② アイヌ文化について知り、共生社会について考えるための準備をしましょう
 - ・共生社会を実現するために気になったこと、確かめたいことの共有
- STEP 3 現地学習・フィールドワーク
 - ・(バス内) 交流しながら学ぶ復習をしよう
 - ・(現地) ウポボイで働く職員と交流を経て共生について考えたこと、気づいたことを共有しよう
- STEP 4 事後学習
 - ・アイヌ文化や共生社会に向けての課題感をどう伝えるのかを考えよう
 - ・マイクロアグレッションについてももう一度考えよう

2 STAGE | シンポジウムへ 道外の高校生に伝えること「共生社会に向けて取り組むべきこと、役割を考えよう」

- STEP 5 「共生社会」を実現するために 理想と現状の整理(課題の整理)
 - (発表の準備 ワークシート利用)
 - ・各自、整理。自分で考える課題と理想を発表できる状態(ホテルの交流会でも必要な要素)
- STEP 6 プロジェクトについて、学び理解、発信の準備をしよう
 - ・全国の高校生と道内の高校生の交流点の整理(バス内、ホテル交流会)
 - ・マイクロアグレッションを起こさない交流の整理(道外の生徒へ発表準備)
 - ・ウポボイ施設[1/10]フィールドワーク準備
- STEP 7 1/10(バス内) 交流しながら学びの復習
 - ・マイクロアグレッションについての整理・発表
- STEP 8 1/10(ウポボイ) 交流しながらアイヌの取り組みを学ぶ
 - ・道内・道外高校生混合グループでフィールドワーク
 - ウポボイで働く方との交流、アイヌ文化に触れる
- STEP 9 1/10(ホテル交流会) 共生社会実現に向けた課題
 - ・ワークブックP23・24
 - ⑤地域の良さ、それを持続するためにできることを宿題として、それをもとに交流
- STEP 10 1/11 ウアイヌコロ会議
 - ・企業の『共生』の取り組みを知りそこにある課題の解決を考える
 - ・ハワイ・オーストラリアでの『共生社会』実現で①かつてあった課題→現在(どのように解決してきたか)、②現在の課題→解決への動き

事後学習①

ウアイヌコロ会議の振り返り

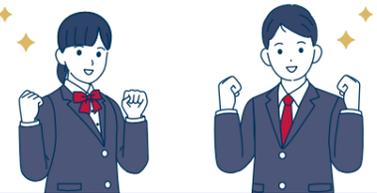
- ・全国の高校生と交流して気づいたことや考えの変化をアウトプット

事後学習②

次年度へ向けて私たちができること

- ・次年度のウアイヌコロ会議をより良いものにするために、自分自身ができることを考え、意見交換

有意義な学びができた
3日間となりました!



ウアイヌコロ会議

1日目 | 2025年1月10日(金)

ウポボイ探究学習プログラム

ウポボイにて、探究ワークブックを用いた「探究学習プログラム」※に参加します。これまでオンライン学習やウポボイ現地学習を通して「共生社会」について考えてきた道内の参加校が、ウポボイで道外高校生をご案内します。

※ウポボイ探究学習プログラム
ウポボイで働く職員や登別・洞爺エリアの地元の方との交流を中心に、アイヌ民族の多様な歴史や文化に触れ、自然環境や火山、温泉、観光、地域産業などを知ることにより、「共生社会」を実現させるために必要なことを参加者1人1人が考えるプログラムです。実施主体:公益財団法人アイヌ民族文化財団



文化解説プログラム「ウパシクマ」特別プログラム・質疑応答

2日目 | 2025年1月11日(土)

ウアイヌコロ会議

「ウポボイ探究学習プログラム」を受講した道内の高校生と全国の高校生が、多様な価値観を認め合い生き生きと暮らせる社会を実現するためにウポボイと道内外の企業の取り組みを参考に議論し、それぞれの役割について考えます。



北海道の高校生が考える共生社会についてシンポジウムを開催



先住民との共生についてのシンポジウムを開催



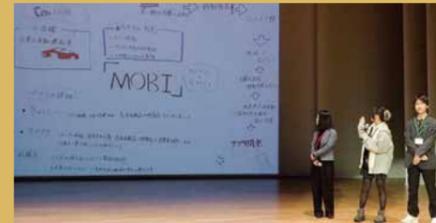
企業の課題解決に向けた取り組みについての企業講演と質疑応答



「共生社会の実現に向けて私・私たちができること」についてディスカッションを行い、各分科会ごとに発表



高校生たちがディスカッションを行っている間、財団職員と教職員によるディスカッションも開催



分科会での発表をふまえ、代表チームを決定し、ウエカリチセ(体験交流ホール)にて全体発表と講評を実施

3日目 | 2025年1月12日(日)

エクスカーショ

北海道ボールパークFビレッジ内KUBOTA AGRI FRONTにて、人が生きていくうえで欠かすことができない“食と農業”について学び、農業経営シミュレーションゲームを通しチームビルディング及び農業の多様性、未来についてともに考えます。



分科会
参加企業



日産自動車株式会社 <https://www.nissan-global.com/JP/>

日産自動車は、EV(電気自動車)のパイオニアとして、EVの普及を通して、日本が抱える環境負荷低減や災害対策等の課題を解決するため、2018年5月に日本電動化アクション『ブルー・スイッチ』を発表し活動しています。全国の自治体や企業と協力し温暖化対策、防災・減災、エネルギーマネジメント、観光、過疎化などの地域課題の解決に取り組み、持続可能なまちづくりを通してSDGs達成に貢献しています。



カンタス エアウェイズ リミテッド <https://www.qantas.com/jp/ja.html>

シドニーを本拠地とし、2020年に創業100周年を迎えたオーストラリアを代表する航空会社です。2024年8月現在、東京(羽田/成田)から豪州3都市(シドニー、ブリスベン、メルボルン)へ週28便※の直行便を運航中です。カンタス航空は、日豪間および豪州国内で最大のネットワークを持ち、豪州内各地へのスムーズなアクセスが可能です。※スケジュール、機材は予告なく変更になる場合があります。

他1社